

チャイルドラインの活動

全国の仲間とともに 子どもの声を受けとめています

子どもは、自分の話を聞いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることで、その課題と向き合い、乗り越えていく力を持っています。

チャイルドラインは、子どもたちと「ヒミツは守るよ」「どんなことでも、いっしょに考える」「名前は言わなくていい」と約束しながら、「子どもの権利条約」の第3条「子どもの最善の利益」を念頭に置き、子どもの意思を尊重し、こころに寄り添う活動を行っています。

電話やチャットを受けとめるのは、全国各地にある70近くのチャイルドライン実施団体・2000人を超えるボランティアです。子どもから寄せられる声は、年間20万件に及んでいます。

チャイルドラインほっかいどうの主な事業

電話（フリーダイヤル）の開設

全国どこからでもつながるフリーダイヤルは、年末年始（12月29日～1月3日）を除く毎日の午後4時から9時まで開設しています。

オンラインチャットの開設

全国どこからでもつながる専用アプリを使って、年末年始を除く毎週の木曜と金曜、第3土曜の午後4時から9時まで開設しています。

研修活動

電話の受け手を養成する研修は毎年実施しています。研修期間はインターン研修も含め約1年間です。受け手になった後も、常に子どもの気持ちに寄り添えるための研修を毎月行っています。このほか、公開講座等も開催しています。

広報活動

道内の小学校、中学校、高校、特別支援学校にフリーダイヤルの番号や、オンラインチャットにつながるQRコードなどを掲載したカードを配布しています。

活動支援のお願い

チャイルドラインは民間のボランティア団体です。チャイルドラインほっかいどうの活動にご賛同いただけましたら、ぜひ会員としてご支援ください。寄付もお待ちしています。

チャイルドラインほっかいどう

正会員	1口:1,000円(3口以上)
一般会員(個人)	1口:5,000円
一般会員(団体)	1口:10,000円
サポート会員	1口:1,000円

●郵便振替 02750-1-74500
加入者/チャイルドラインほっかいどう

※チャイルドラインほっかいどうは税の優遇措置(寄付金控除)が受けられる「認定NPO法人」です。寄付金のほか、正会員以外の会費も税控除が適用されます。

あなたも受け手になりませんか

「チャイルドラインにかかってくる電話を受けるのは、ボランティアの「受け手」です。チャイルドラインほっかいどうは、受け手になるための「受け手養成研修」を毎年開催しています。研修生の募集期間は毎年4月から6月中旬です。募集要領などは、当会のホームページに掲載しています。また、カードやポスターの配布、イベント時の広報活動に参加できるスタッフも募集しています。



特定非営利活動法人(認定NPO)

チャイルドラインほっかいどう

TEL FAX 011-272-3755

(事務局活動日は平日の月曜日・水曜日の正午～午後4時)

〒060-8691 札幌中央郵便局私書箱13号

ホームページURL https://cl-hokkaido.or.jp/otona_index.html
Eメール chairud@gray.plala.or.jp



電話とチャットでつながる 「心の居場所」



つらいとき、苦しいとき、悲しいとき、
チャイルドラインは子どもの声を受けとめます。
さびしいとき、うれしいとき、誰かに話したいとき、
チャイルドラインは子どもの傍らで、
その言葉を受けとめます。

18歳までの子ども専用電話&オンラインチャット



チャイルドライン®

チャイルドラインにかかってきた 子どもの声

●中学受験でがんばって今の学校に入った。高校受験がなくて楽かなと思っただけ、勉強についていけないし、やることもたくさんあって毎日追い詰められている。(高2女子)

●リスカしちゃうのは景気づけ？みたいなもの。死ぬためじゃないよ。生きるためだよ。でも、死んじゃってもいいかな、とも思う。(中2女子)

●友だちにいじわるされて先生に相談したら注意してくれてとまった。でも、しばらくしたら、またいじわるしてきた。いじわるする子が自分の仲良しの子としゃべってる。一番イヤなのは友だちを取られること。新学期、学校に行きたくない。(小学校低学年男子)

●寮生活だけど、1学年上の先輩と同学年の子が自分の悪口をずっと言うのが辛い。その友だちとトラブルになって生徒指導を受けたそのことで、今度、自宅に帰ったら親からも怒られるかも。行き場がない。(中学男子)



●母子家庭で兄弟に障がいもあって、母も死にたいって言ってる。普通の家に生まれて大学に行きたかった。自分より成績の悪い友だちだって大学行くのに。(高3男子)

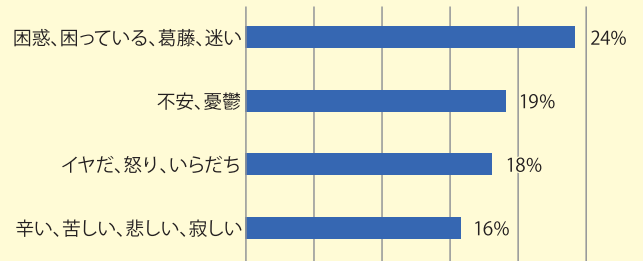
※プライバシーに配慮し、再構成したものです。

かけてきた子どもの気持ち

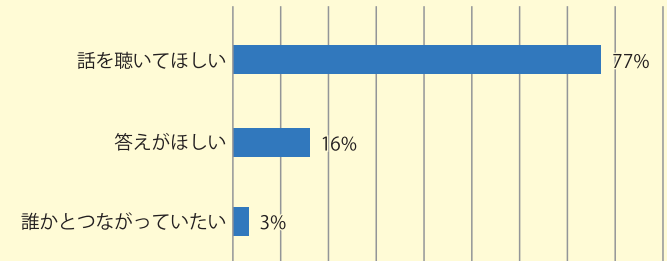
チャイルドラインほっかいどうが受けた電話やチャットの件数と、項目別に分類した話の内容などは、年度ごとの事業報告としてホームページに掲載しています。その中で、「かけてきた子どもの気持ち」と「受け手が感じたかけ手の動機」をグラフにしました。

過去5年間のデータですが子どもにとっては息苦しい、生きづらい社会になっていることが垣間見られます。

「かけてきた子どもの気持ち」



「受け手が感じたかけ手の動機」



一緒に考えよう！応援しているよ！ とエールを送ることの大切さ

子どもたちは「自分で解決して行く力」「明日に向かう力」を秘めています。その力を発揮するには、子どもの気持ちを真剣に受けとめる身近なおとなたちの優しい眼差しが必要です。どこにいるのかわからないけれど、自分の味方でいてくれる人がいると感じるだけで頑張ることができるのです。話すこと理解してもらえることにはそれだけの力があるのです。

子どもの話を聴くということ

電話を受けるボランティアは、継続的に研修を受けています。チャイルドラインでは、悩みを解決するためのアドバイスはしません。子どもたちの話を聴き、行きどころのない気持ちを受けとめます。子どもたちが悩みを乗り越えていくためにできることを一緒に考え、寄り添っています。

